



# おくたま 町議会だより

## 第180号

平成29年2月5日発行



編集・発行 奥多摩町議会 電話 0428-83-2302(直通) 奥多摩町ホームページ <http://www.town.okutama.tokyo.jp/>



式典の様子



須崎議長祝辞

平成29年1月9日（月） 成人の日の式

## 成人おめでとうございます

### 第2回臨時町議会

平成28年11月28日、第2回臨時会が開催されました。

### 町長提出議案と結果

次の議案が提出され、いずれも全議員の賛成により、原案のとおり可決されました。

#### 条 例

- 議案第77号  
議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第78号  
特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第79号  
一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

## 第4回定例町議会

第4回定例会は、12月13日から12月16日までの、会期4日間にわたり開催されました。

### 町長提出議案と結果

次の議案が提出され、いずれも全議員の賛成により、原案のとおり可決されました。

#### 条 例

- 議案第80号  
町税賦課徴収条例の一部を改正する条例
- 議案第81号  
国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 議案第82号  
家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

○議案第83号

子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例

○議案第84号

ひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例

○議案第85号

町営住宅使用条例の一部を改正する条例

#### 規 約

- 議案第86号  
東京都町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約

#### 平成28年度補正予算

- 議案第87号  
一般会計(第5号)
- 議案第88号  
都民の森管理運営事業特別会計(第2号)
- 議案第89号  
山のふるさと村管理運営事業特別会計(第2号)

○議案第90号

国民健康保険特別会計(第2号)

○議案第91号

下水道事業特別会計(第2号)

○議案第92号

国民健康保険病院事業会計(第1号)



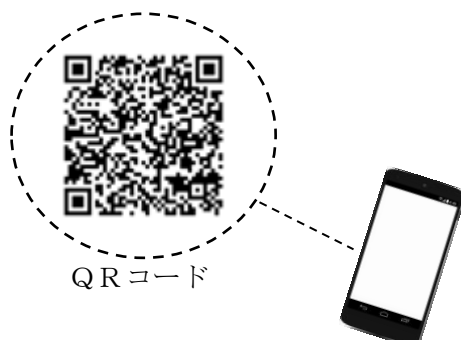
### — 政務活動費について —

奥多摩町議会では、一人年間6万円の政務活動費を各会派(全5会派)に交付しています。

政務活動費の支出内容については、「政務活動費収支報告書」により、領収書等を添付して毎年報告しています。

# 一般質問

平成28年第4回定例会では、10名の議員が一般質問を行いました。ここでは、紙面の都合により、内容を要約して質問者順に掲載しています。質問・答弁の全文は、2月中旬頃より、ホームページで閲覧できます。(町ホームページ-町議会-会議記録) また、町内各図書館でも会議録をご覧いただけます。



町ホームページは、スマートフォン・タブレット端末等でもご覧いただけます。

(1) 11番 師岡 伸公議員 (4ページ)

- ①奥多摩町における訪問リハビリについて
- ②丹三郎寸庭線の整備と不法投棄対策について
- ③広域での熊対策を

(2) 6番 石田 芳英議員 (5ページ)

- ①わさび苗栽培の促進について

(3) 9番 原島 幸次議員 (6ページ)

- ①新教育長が目指す奥多摩町の教育について

(4) 3番 澤本 幹男議員 (7ページ)

- ①2020年東京オリンピック・パラリンピックの関連施設での奥多摩産木材の活用について

(5) 8番 高橋 邦男議員 (8ページ)

- ①小内ダム竣工60周年にむけて

(6) 10番 村木 征一議員 (9ページ)

- ①最後の町民体育祭の総括と今後のあり方について

(7) 5番 小峰 陽一議員 (10ページ)

- ①境地域の道路環境等の整備について
- ②奥多摩町境の湧水「祥安寺の清泉」の管理について

(8) 4番 清水 明議員 (11ページ)

- ①はとのす荘周辺の今後の観光整備について
- ②奥多摩ふれあいまつりについて
- ③遊休農地・耕作放棄地の対策について

(9) 7番 宮野 亨議員 (12ページ)

- ①たためばコンパクトになる防災ヘルメットを学生へ
- ②川井駅に歩行者用スロープを

(10) 2番 大澤 由香里議員 (13ページ)

- ①介護保険制度について
- ②高齢者の足を確保するための施策について

## 11番 師岡伸公議員



**問 町における訪問リハビリの現状と今後の展開は。**

**答 より一層、在宅サービスを利用できるよう、支援していく。**

師岡 ①現在の利用者は。②潜在的な利用希望者数の把握は。③空家等を活用した事業所のサテライト化、町内での従事者人材育成等、今後の訪問リハビリ拡大の可能性は。

町長 ①12月現在の利用者は約8名である。②平成30年度からの第7期介護保険事業計画策定に向けた「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を平成29年の早い時期に実施することで、潜在的な利用希望者を把握したいと考えている。③今後、町内で訪問リハビリテーションサービスが拡大していくためには、事業者にもメリットがある環境を作る必要がある。介護保険の相談窓口はもとより、ケアプランを作成するケアマネージャーも訪問リハビリの必要性を認識し、積極的に活用する必要があるため、町としても、関係機関に働きかけ、要支援、要介護高齢者の皆さんの在宅生活の継続を支援していきたい。

**問 丹三郎寸庭線の整備と不法投棄対策は。**

**答** 青梅警察署、道路管理者及び地域の皆様と連携し、不法投棄防止に努めていく。

師岡 ①丹三郎寸庭線の整備状況について、現在の進捗状況と今後の予定は。②町全体の不法投棄対策と丹三郎寸庭線における防止対策は。

町長 ①平成27年度に法面の落石防護網を、本年度は既存擁壁の補強工事を行った。来年度からの2か年で全線の舗装打替え工事を行い、完了する予定である。②町全体では、監視活動を行うとともに、各自治会で地域の一斉清掃、不法投棄が多く発生する場所には、立入禁止のトラロープによる規制と看板の設置、ダミー監視カメラの設置及び奥多摩湖周辺では、美化推進連絡会によるキャンペーン活動を年3回と不法投棄防止パトロール

ールを年6回実施している。また投棄物から原因者が特定、類推できるものが発見された場合、必ず警察に通報することとし、厳しく望む対応をとっている。ダミー監視カメラによる対策が、他の地域で功を奏していることから、丹三郎寸庭線においても、カメラの設置を含め、引き続き各種不法投棄対策を実施する。

**問 広域での熊対策を。**

**答** 都環境局、隣接自治体と情報共有を図り、対策・対応が講じられるよう東京都に要望していく。

師岡 熊対策は多摩川流域、西多摩全体での対応が必要では。

町長 町では環境局に対し、各市町村の熊出没報告を全関係市町村に連絡するよう申し入れ、市町村広域での情報共有、都と市町村の役割分担など新たな取り組みを始めたところである。



6番 石田芳英議員



問 わさび苗栽培の促進を。

答 わさびは町の最大の特産品であり、引き続き後継者育成と普及に努めていく。

石田 ①当町の今後のワサビ苗栽培の促進について、一般的な取組の方向性は。②ワサビ苗は性質の後退現象が大きいとされ、品種改良等の研究の場面や品質管理の側面が重要になると思うが、町の考えは。③苗栽培者への栽培技術の指導や普及についての考えは。

町長 ①主な苗の購入先の伊豆でも苗生産農家が限られ、価格も上がって来ており、新規に購入を希望する方は入手が困難との話も伺っている。町内で苗を生産するための「わさび苗施設設置補助」と「わさび苗購入補助」の2つの制度を新たに導入するため、平成28年度当初予算に計上し、現在、奥多摩山菜栽培組合を通じて生産者に周知しているところである。②わさびの場合、同じ品種で継続的に苗を生産すると退化していく現象が多く見られるため、品種改良等の研究が重要となる。現在は苗のほとんどを他地域からの購入としている状況であるため、

その点はこれまで大きな問題とはなっていない。しかし、昨年、組合員の小峰雅丘氏が「M16」と命名した新品種を発見しており、今後、東京都や山菜栽培組合とも相談し必要な対応を考えていきたい。③現在ほとんどが購入苗であるため、まずは苗を生産していただくことが先決

と考えており、今回の補助を利用し、苗を生産いただくよう組合に働きかけているところである。また、小峰雅丘氏もM16を普及したい意向があるとも伺っているため、それらの点を総合的に勘案し、要望も踏まえ検討していく。



奥多摩の主要農産品である「わさび」。全国でも有数の生産高の地位にある。

## 問 新教育長が目指す奥多摩町の教育は。

答 子どもたちが「通いたい、通い続けたい」と思える学校づくりを進めていきたい。



原島 平成28年10月1日付、教育委員長と教育長を一本化した新教育長として就任された若菜新教育長が目指す奥多摩の教育について、①新教育委員会制度改正内容及び総合教育会議とは。②若者定住化を推進する中、子ども達の教育をどのように進めていくのか。来年度導入のコミュニティスクール(※)を今後どのように進めていくのか。

教育長 ①教育委員会制度の改正については、1点目として教育委員長と教育長を一本化した新教育長の設置、2点目として教育長へのチェック機能の強化と会議の透明化、3点目として総合教育会議の設置、教育に関する大綱を首長が策定すること等が挙げられる。この改正により、首長が直接教育長を任命すること、教育行政の第一義的な責任者が教育長であることが明確になること、また、常勤の教育長が教育委員会招集のタイミン

緊急事態に早急に対応することが可能になること、首長と教育委員会が教育政策の方向性を共有し、一致して執行にあたること等が挙げられる。②子供たちへの支援、学校への支援は、小さい町だからこそ、学校が小規模だからこそできることが多くある。小さい町だから、小規模校だからこそできる支援を最大限に行い、小規模校のデメリットを学

校連携等を通じて最小限にできるよう教育行政を推進していく。コミュニティスクールは今後については、平成29年度に奥多摩中学校に導入し、平成30年度には古里小学校、氷川小学校にも導入し奥多摩町のすべての学校をコミュニティスクールとする計画である。



来年度、コミュニティスクールが導入される奥多摩中学校

※コミュニティスクール  
学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。



3番 澤本幹男議員



問 2020年東京オリンピック・パラリンピック  
関連施設での奥多摩産木材活用を。

答 オリンピック準備局や産業労働局など、東京都の  
関係部局等へ要望していく。

澤本 東京で開催されることを踏まえ、施設の木造化、施設の内装や外装への木材利用で木質化する計画があるのであれば、奥多摩・多摩の材木を使用していきたい。環境にやさしく、選手に最適な競技環境や滞在環境を提供するために木材の積極的な活用も提言されている。東京オリンピック・パラリンピックの関連施設で奥多摩の材木・多摩の材木を利用することで、林業・木材産業の活性化にもつながる。諸計画が進む前に、早期に東京都及びオリンピック組織委員会に対し奥多摩・多摩の木材の活用を要望すべきと考えるが、町の所見は。

町長 使用の主となる集成材の加工については、人工乾燥とコンピュータ制御によるプレカットが必要となるが、現在、東京都では大規模な施設がほとんどない状況である。このような状況から、町では他県で整備している「県産材加工センター」と同様な施設を整備するよう、東京都に継続して要望していると

ころである。また、木材搬出業者についても市内には森林組合の他に民間業者が1社あるのみで脆弱な体制となっていること、当町にあつてはシカ被害の著しい地域である多摩川北岸は、「シカ被害が減少するまで当面、主伐を見合わせる地域」として、東京都の地域森林整備計画及び町の森林整備計画の位置づけにより主伐ができない状況にあることなど、奥多摩材を含む多摩産材は厳しい状況にある。世界最大のスポーツと平和の祭典である「東京オリンピック・パラリンピック」に向け、構造物としての利用が難しい場合は、内装材や家具などとして「奥多摩材を含めた多摩産材」が利用



枝打ち作業の様子。

林業・木材産業活性化のため、東京オリンピック・パラリンピックの関連施設で奥多摩・多摩の材木の利用要望を。

されるよう、積極的に東京都の関係部局へ要望していきたい。

**問 小河内ダム竣工60周年に向けて町の考えは。**

**答 東京都や関係機関と連携し、東京都の行事などに積極的に協力していく。**



高橋 小河内ダムの建設では、旧小河内村と丹波山村及び小菅村の945世帯、約6千人の住民皆さんが移転を余儀なくされるとともに、建設に携わった都職員をはじめ、工事関係者87名の方々が殉職された。来年の小河内ダム竣工60周年をダム建設の歴史と水資源の大切さについて再認識する機会に、また、小河内地域の観光振興やダム流域の森林保全について考える契機にしてほしいと願う。町の小河内ダム竣工60周年に対しての考えは。また、町としてイベントや事業の予定は。

町長 「ダム竣工50周年」では、ダム建設によって移転を余儀なくされた方々や、多くの関係者に感謝と敬意を表するとともに、今後もより愛されるダムとして次世代に引き継いでいくため、東京都水道局主催のもと、「奥多摩湖いこいの路全線開通記念式典」「ダム施設見学会」「都庁でのシンポジウム」「都民広場イベント」「ダム作品展覧会」「ダム

竣工50周年式典」等、各種記念事業が実施され、また、その後の平成22年4月に念願であった都営水道一元化が実現されたことは、記憶に新しいところである。小河内ダム竣工60周年について、東京都水道局に問い合わせたところ、現段階では実施内容の検討を行っている状況

であり、今後、関係機関と調整し、決定していくとのことである。具体的な行事内容等については、これからという状況であるが、東京都水道局によると、規模的には50周年より小さくなるのではないかと感触をもっているようである。町



旧小河内村の多くの住民・工事関係者の大きな犠牲の上に完成した「都民の水がめ」。竣工60周年を機会にダム建設の歴史と水資源の大切さの再認識を。

としても、地域振興や自然環境の大切さなどを再認識していただく絶好の機会であると考えており、東京都や関係機関と連携し、東京都が行う行事などに積極的に協力していく。





## 問 最後の町民体育祭の総括と今後のあり方は。

答 町民体育祭に代わるものとして、奥多摩町に合った事業を、再来年度の実施に向け検討する。

村木 第1回町民体育祭は、昭和43年、文化祭とともに氷川小学校校庭で開催され、当時は4千5百人の町民皆さんがこぞって参加された、まさに町民総参加の祭典であった。約半世紀続いた町民体育祭も人口減や少子高齢化に伴い今年の大会が最後の大会となったが、この半世紀を振り返りどう総括するか。今後はふれあいまつりの中で、各地域にある郷土芸能を一堂に会し一大イベントにする等、考えられると思うが町長の所見は。

町長 町民体育祭は、老若男女の分け隔てなく、多くの町民が一堂に会し、競技を楽しんだり、日頃、なかなか顔を見ない他自治会の方々とも旧知を温め合うことができ、更には、競技終了後においても自治会ごとに懇親会が設けられるなど、地域コミュニティの醸成をはじめ、地域のきずなや世代間交流など、さまざまな意味において、たいへん有意義な素晴らしい行事であったと総括している。しかし、

近年では地域の住民皆様から高齢化の進行や人口の減少などにより、選手の確保が難しいとの声が多く上がってきた。町体育協会とも検討を重ね、得点競技を減らし、参加しやすく楽しめる競技種目となるよう変更してきたが、地域の状況変化に対応できなくなったことから今回が最後の体育祭となった。今後は、

町民体育祭に代わる事業として、子どもから高齢者までが一堂に会し、より多くの皆様と一緒に楽しんでいただける催し物を開催したいと考えている。そのため、各地域の高齢化や人口の減少などの実情も考慮し、体育協会や郷土芸能保存団体など多くの団体と

協議の機会をもつとともに、住民皆様のご意見やアイデアも伺いながら、町民体育祭に代わるものとして、どのような行事がふさわしいか、奥多摩町にあった事業を検討するとともに、再来年度の実施に向けてさまざまな角度から検討していく。



約半世紀続いた町民体育祭は平成28年10月の第24回大会が最後の大会となった。今後、体育祭に代わって多くの町民が集える行事の開催が望まれる。

## 5番 小峰陽一議員



## 問 境地域の道路環境等の整備を。

答 住民皆様の「安心・安全」の確保を最優先に対応していきたい。

小峰 桧村から境集落までの旧道は、地域住民の生活道であり、奥多摩むかし道の一部として観光客の誘致に力を注いでいる場所でもある。災害を未然に防止する必要があるので、以下3点について調査、対応されたい。①小中沢↓境集落間の落石対策。②境集落中央（旧境分校広場の上部）の地盤沈下対策。③白髭神社下道路残壁の沈下崩落対策。

町長 ①この区間は、落石防護網を設置しているが、網の内側に土砂が堆積して道路に飛散したり、落石が防護網の上部から防護網を飛び越えて道路に落下するなどしている。このため、防護網の内側に堆積している土砂等の除去を行い、防護網の上部については、現況調査を行ったうえで浮石など危険個所の排除や、場合により防護網のかさ上げなどを検討していきたい。②現地調査を行ったところ、国道411号線に接続する「町道境桧村線」と「町道境東線」に挟まれる墓地が沈下をしていたもの

の、町道2路線の路側擁壁、土留擁壁、路面舗装等にはひび割れ、沈下は認められなかった。③ご指摘の擁壁を含む周囲一帯と白髭神社境内の一角を調査したところ、町道の上部にある白髭神社境内のコンクリート基礎の一部とタタキの一部に若干のひび割れが生じていた。今後、墓地や神社の下にある町道にも同様の地盤沈下等が生じてくる可能性も否定できないため、これら町道については定期的に経過観察を行う。

## 問 奥多摩町境の湧水「祥安寺の清泉」の管理は。

答 今後は奥多摩総合開発（株）が取水をする際に清掃等を行うようにしたい。

小峰 境の清泉の取水設備の清掃等は地域の厚意により実施されてきたが、高齢化が進み対応が困難になってきている。また、町道が狭いため交通トラブルも発生している。これらの状況から、以下

4点について対応されたい。①取水設備の管理委託。②取水場の看板修復。③国道411号線から集落入口三叉路間への待避所設置。④国道411号線から右折時の安全確保。

町長 ①今後は、奥多摩総合開発（株）が取水する際に清掃等を行うようにしたい。②設置から13年が経ち、経年劣化による割れや剥がれ等が目立っているため、今後、看板の掛け替えにより再整備を図っていきたい。③今後、地元の境自治会及び関係地主等と協議を行い、実現が可能であれば待避所を設置し、安全・安心の確保と利便性の向上を図りたい。④すでに国道側に道路反射鏡2基が設置されているが、地域住民の皆さんや利用者からさらなる安全確保が必要とのことであれば、道路管理者である西多摩建設事務所との定例協議会の中で検討していく。

## 4番 清水 明議員



**問** はとのす荘周辺の観光整備の進捗状況は。

**答** 今年度、周辺の測量を実施したが、今後、測量結果に基づき基本構想を定めていく。

**清水** はとのす荘周辺の観光整備の進捗状況は。

町長 はとのす荘周辺については、町内でも有数の溪谷美を誇る鳩の巣溪谷を最大限に活かせるよう整備する考えである。今年度、周辺の測量を実施したが、今後はこの測量結果に基づき、車両進入路の整備や、鳩の巣溪谷にいたる遊歩道、花木の植栽を含めた公園整備などを庁内プロジェクトチーム等で検討し、基本構想を定めていきたい。

**問** 奥多摩ふれあいまつり実行委員会の組織、事業の総括と今後の課題は。

**答** 予算の関係もあるが、検討課題とするものがあると考えている。

**清水** ①組織の構成、事業の進め方、スタッフ数は。②出店数、出店関係者数、来場者数は。③委員会の収入と主な支出の内容、過去3年間の収支状況は。④事業の総括と今後の課題は。

町長 ①組織構成はふれあいまつり実行委員会規約により定められており、事業は実行委員会において審議され決定いただいている。詳細は、企画・推進委員会、各打合せ会での打合せ、職員打合せ会での説明を経て開催している。スタッフ数については、テント・舞台等の設営は業者委託としているが、運営管理や司会、案内・誘導等の役割を町職員が担っており、1日30名程度のスタッフが必要となるため、全課に協力を呼びかけ対応している。②出店団体数は平成26年度が52団体、平成27年度が51団体、平成28年度が52団体である。来場者数は、平成26年度が4千4百50人、平成27年度が8千百人、平成28年度が8千2百人であった。③平成26年度は収入6百61万8千7百23円、支出5百60万2千9百40円、平成27年度は収入7百24万5千8百64円、支出5百73万2千3百63円、平成28年度は収入9百12万9千百1円、支出は7百72万9千4百86円となる見込みで

ある。④昭和歌謡ショーの実施により、来場者が増加したことによる対応が課題と考えている。観客席が一時的に不足すること、雨天時に飲食できるスペースがないこと等、予算の関係もあるが検討課題とするものがある。

**問** 遊休農地・耕作放棄地の対策は。

**答** 多様な農地の利用が図られるよう、検討・研究を重ねていく。

**清水** 農地の貸し出しなど、住宅と同様に町が仲介する方法がとれないか。法的な制約もあると思うが町長の所見は。

町長 「市民農園整備促進法」または「特定農地貸付法」による許認可が必要となるが、自治体が主体となって農地を貸し出す場合には様々な制約があり難しい部分がある。今後も獣害対策の推進とともに検討・研究を重ねていく。



**問 たためばコンパクトになる防災ヘルメットを学生へ。**

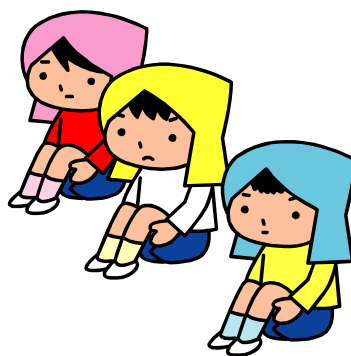
**答 中学校については折りたたみ式ヘルメットの配備について速やかに検討していく。**



**宮野** 今後の様々な災害に備え、段階的に学生へ折りたたみ式防災ヘルメットの支給を。

教育長 小学校については、防災頭巾を常備している。防災頭巾は落下物に対して衝撃を吸収する一定の効果があるほか、頭部から首にかけて広範囲に覆うため、火災発生時には火の粉を防ぐ効果がある。折りたたみ式ヘルメットは衝撃を吸収する効果にすぐれ、火の粉を防ぐ機能を備えた製品も開発されているが、低学年ではヘルメットを開くときに手間取るなどの課題があると伺っている。そのため小学校では当面、従来どおり防災頭巾を継続して使用することとし、折りたたみ式ヘルメットについては今後の技術改良の進展を注視しつつ導入を検討したい。中学校では、防災頭巾やヘルメットは配備しておらず、統合により1クラスあたりの人数も増え、机周辺のスペースも狭くなったが、折りたたみ式ヘルメットならばかさばらず、落下物等

の危険回避に迅速に対応できるため、この防災ヘルメットを活用した安全対策は大変有効であると考えている。



**問 川井駅に歩行者用スロープを。**

**答** 物理的な面からスロープの設置は困難である。

**宮野** 川井駅にはホームから出た際、スロープがあるが、車道に出るには階段を降りなければならぬ。自転車置場の上を使い、スロープを設置できないか。また、段階的に古里・鳩ノ巣・白丸駅の現在ある階段に簡素なスロープの設置要望を。

町長 建築基準法、建築物バリアフリー条例により、スロープの勾配、幅、踊り場の設置等が定められている。町道川井駅前線をまたぐ形で駐輪場と川井駅ホームを結ぶスロープを想定した場合、直線的なスロープの設置は困難であり、ループ橋のようなスロープを設置する場合には50メートル以上のスロープが必要となる。また、このスロープを支える支柱にあつては、町道川井駅前線の道路幅に匹敵する大きさになることが予想されるため、物理的に困難と思われる。古里・鳩ノ巣・白丸駅へのスロープの設置要望については、西多摩地域広域行政圏協議会を通じてJR八王子支社に対して要望活動を行い、毎年の継続要望としている。当町のような急峻で険しい地形の町にとって、バリアフリー化は弱点と言えるものであるが、今後も可能な限り町内におけるバリアフリー化を推進していきたい。

2番 大澤由香里議員



**問 国が進める介護見直しが町民に与える影響は。**

**答** 制度改革により多様な主体によるサービスが整備できることが大前提であり、今後の議論の行方を注視していく。

大澤 ①訪問型サービスB（※）は導入すべきでないと考えているが、町の考えは。②デイサービスについて、訪問介護のような「緩和した基準によるサービス」に関し、町の考えは。③介護予防・日常生活支援総合事業における対象者選定について、要介護認定業務を経ず基本チェックリストによる選定ができることとされた。介護保険サービスを使わせない権利侵害にもつながるため要介護認定をこれまで通り行うべきと考えるが町の考えは。④地域支援事業費の上限枠を理由にサービスの利用を制限すべきではないが、町の考えは。

町長 ①町では訪問型サービスBは導入せず、従来型サービスのみを実施する考えである。②「デイサービス 森の時計」では既に要支援者に対して緩和した基準によるサービスを実施している。今後、介護予防の観点から枠の拡大も検討したい。③基本チェックリストによる判断は、介護認定の申請を拒むもの

ではない。利用者が総合事業の利用を希望した場合に適用され、介護が必要な方には従来通り、要介護認定を受けていただくことになる。④今後より一層介護予防に力を入れ、介護給付費を削減していくことが課題であり、介護予防のための費用は十分確保するつもりである。サービスの利用を制限することはない。

※訪問型サービスB

ボランティア等、住民主体の自主活動として行う生活援助等

**問 高齢者の足の確保を。**

**答** 住民同士が助け合う「福祉のまちづくり」を目指していく。

大澤 ①運転免許を自主返納した町民の人数は。②認知症により免許取り消しとなった町民の人数は。③来年の改正道交法により認知症で免許取り消しとなる町民の人数の想定は。④改正道交法

への対応は。⑤運転経歴証明書交付手数料の全額助成を。⑥住民主体の新たな交通システム導入は。

町長 ①町のみ的人数は不明だが、西多摩地区の合算で、平成25年度は194件、平成26年度は367件、平成27年度は513件、平成28年度は10月末日までに514件である。②③④認知症による免許取消し者数は青梅警察署管内で平成25年度に3人、平成27年度に1人である。町で介護認定を受けている447人のうち、認知症自立度が1以上の診断を受けた方は364人だが、これらの方が運転免許証を持ち、取り消しになったかは町では把握していない。認知症の診断を受けただけで通常の生活を続けられる方もおり、把握は困難である。⑤町でも高齢者が運転免許証を自主返納する人数の増加が予想されるため、支援制度の検討を進めていく。⑥「地域ささえあいボランティア事業」、「外出支援サービス」の活用を拡大することを含め、より効果的な対応を図っていく。

# 議会 日誌

11月

- 2日 首都圏中央連絡自動車道建設  
促進協議会総会  
3日 教育文化活動奨励証授与式  
5日 福祉大会  
8日 奥多摩・檜原間林道鋸山線改修  
都道編入促進協議会総会  
12日 火災予防業務協力者に対する  
表彰式  
13日 第57回加藤旗争奪駅伝競走大  
会開会式  
17日 西多摩地域広域行政圏体育大  
会総合開会式兼前夜祭  
19日 青梅市陸上競技協会創立80周  
年記念式典・祝賀会  
28日 議会運営委員会  
第2回臨時会

12月

- 6日 議会運営委員会  
7日 身体障害者福祉協会忘年会  
13日 第3回定例会（第1日）  
14日 第3回定例会（第2日）  
16日 第3回定例会（第3日）

1月

- 5日 青梅商工会議所賀詞交歓会  
町賀詞交歓会  
8日 消防団出初式  
9日 成人の日の式  
14日 柔道会稽古始式  
消防団新年会  
15日 青梅警察署武道始式  
17日 西秋川衛生組合汚泥再生処理  
センター工事起工式  
19日 三多摩地区消防運営協議会役  
員会・第二部会  
20日 西多摩郡町村議会議長会臨時  
総会  
三多摩上下水及び道路建設  
促進協議会第3委員会  
21日 勝山一夫氏藍綬褒章受章祝賀  
会  
23日 議会だより編集委員会  
26日 青梅交通安全協会理事新年会  
30日 都市町村議会議員公務災害補  
償等組合議会定例会  
西多摩地区議長会賀詞交歓会  
三多摩上下水及び道路建設  
促進協議会第2委員会  
31日 体育協会新年会

## 議会だよりのご感想を およせください

また、議会に対するご意見・ご要望等が  
ありましたら、お気軽に議会事務局まで  
お知らせください。

## 編集後記



世界の潮流が変わりつつあります。  
「世界経済の流れは天気予報みたい  
なもので、私たちはそれに対応してい  
くしかない」ある識者の年始の言葉  
です。

ピコ太郎さん、彼のパフォーマンス  
が世界を席巻することを誰が予想し  
たでしょうか。難しい時代になりまし  
た。デジタルカメラの発明のように産  
業分野でも大きな変革が進んでいま  
す。20年後には今ある職業の半分が  
消えると予測されています。今、私た  
ちができることは・・・子や孫に魅力  
ある家族、地域、町を残す。地に足を  
つけた生活を送ることでしょうか。

地方議会もその責務が問われてい  
る昨今、このことを肝に銘じてこの一  
年活動してまいります。

年頭にあたり、町民皆様の健康とご  
多幸をお祈り申し上げます。

(師岡 伸公)  
原島 幸次 澤本 幹男  
宮野 亨 村木 征一

## 第1回定例会

3月7日頃から予  
定しています。

詳細は、町ホームペ  
ジ、防災行政無線でお  
知らせします。

皆様の傍聴をお待ち  
しています。